

難局を乗り越えるためのオンライン授業評価： 基本的な観点と方法

藤本 徹

東京大学 大学院情報学環 講師

専門：ゲーム学習論、オンライン教育

本日の話題

- 「オンライン授業の評価」の観点：大学、教員、学生
- 海外のオンライン授業の形式と成績評価：
MOOC以前と以後
- 急ごしらえのオンライン授業に活かせる知見
 - リソースがなくても応用できることを考える
 - 効率化の考え方とコツ
 - 授業モデル転換の例

※東大の取り組みの話ではありません

※教育工学・教授システム学の立場からの話題提供

- 授業デザインの考え方：鈴木克明先生の講演を参照
- 成績評価の手段：山田政寛先生の講演を参照

主な対象

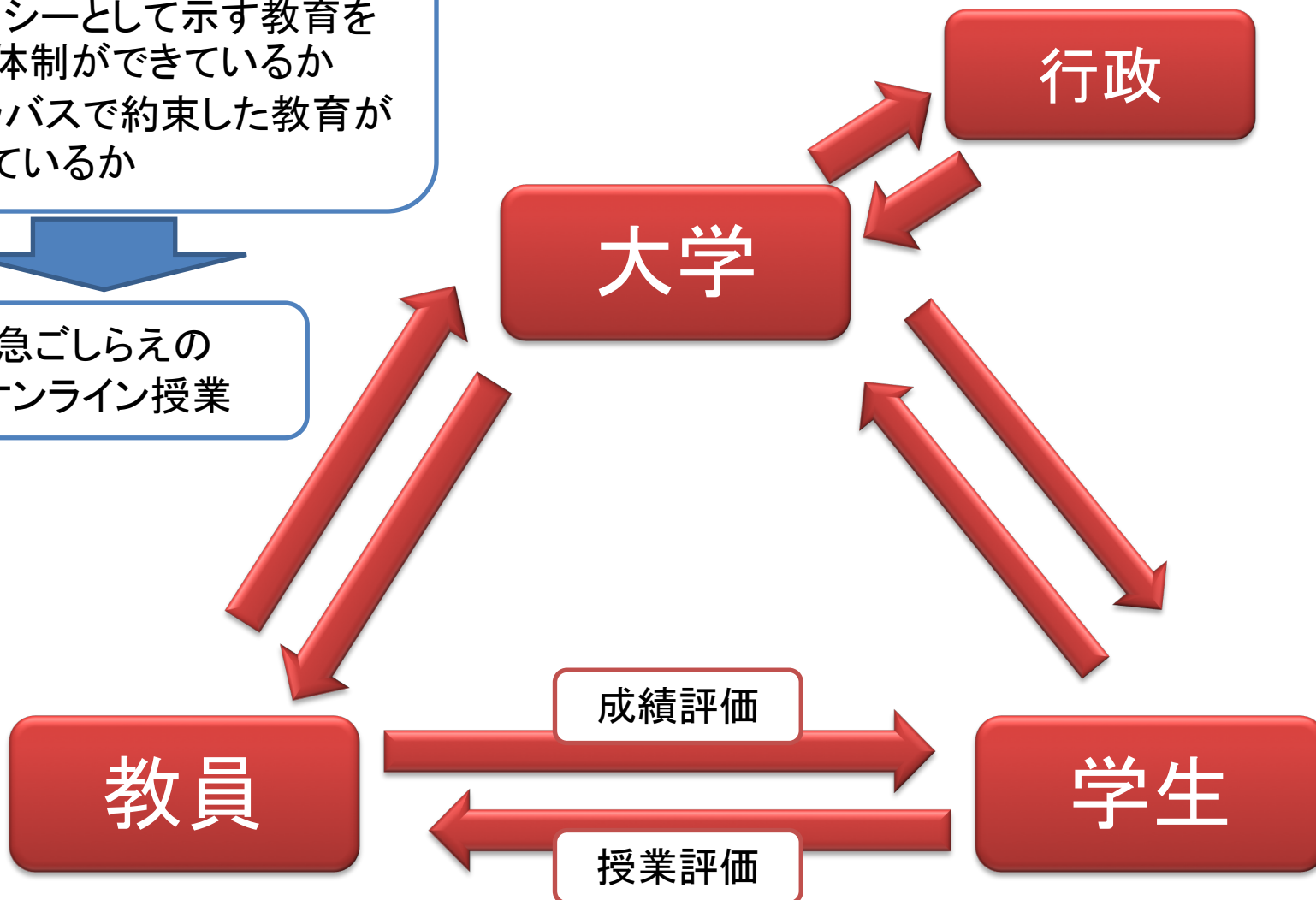
- **急にオンライン授業をやれと言われて困っている教員**
 - **たくさん担当科目を受け持っていて大学が期待するようにオンライン化するのはとても間に合わない**
 - **「がんばって持ち場を守れ」と指示はくるが、補給は来ない**
 - **LMSなど大学が提供するツールがないか、不十分で、結局、手持ちリソースで「DIYオンライン授業」化**
- **先端事例ではなく、「家庭でできる簡単レシピ」的内容**

「オンライン授業の評価」の観点

オンライン授業の成否の評価
大学:ポリシーとして示す教育を提供する体制ができているか
教員:シラバスで約束した教育が提供できているか



急ごしらの
オンライン授業



- **伝統的なオンライン大学**
 - オンデマンド型、LMS上でのテキストベースの学習が基本
 - 授業の定員：講師が指導可能な範囲(数十～数百人/年)
 - 成績評価方法：
 - 確認テスト、レポート、プロジェクト
 - 授業参加の評価はディスカッションフォーラムへの参加
- **大規模公開オンライン講座(MOOC)**
 - オンデマンド型、動画視聴＋テキストベースの学習
 - 授業の定員：制限なし(数千～数万人/年)
 - 成績評価方法：
 - 自動採点の確認テスト、相互採点レポート
 - ディスカッションフォーラムへの参加はカウントしない
 - (学位プログラム)監督付き試験も実施できる仕組みを整備

- **リソースがなくても応用できることを考える**
 - 混乱の要素を減らす(重要度低、失敗リスク大の活動は回避)
 - 何を残すか、何をやらないかを決める(がんばり過ぎない)
 - 詰め込まず、余裕を持たせて自分の余裕を作る
- **効率化の考え方とコツ**
 - しなくて良い作業を発生させない
(例:提出方法の工夫:ワードで提出→Googleフォーム)
 - 採点の手間の少ないミニテストに置き換える
(高配点な試験をしない)
 - 講義をリストラしてフィードバックの機会を増やす
(例:導入とポイント解説+ミニ演習)

授業モデル転換の例

- 「試験に向けて教える」モデルから「学習ガイド・ペース管理」モデルへの転換
- 授業に形成的評価を組み込んでフィードバックを増やす
 - フィードバック増 = 学習効果大、満足度上昇
 - 反応が見える = 教員もモチベーションが上がる
 - 従来の筆記試験ができない悩み自体を解消する

